

## 日本の大学生の就職観

ライター：川崎萌、名倉俊雄、高永愛美 エディター：野口萌

日本では、大学生は一般的に大学を3月に卒業し、その年の4月に一斉に新入社員となる。2016年に卒業予定の学生は既に今年3月から本格的に就職先を探している。多くの学生は就職する1年以上前から就職先を探し始め、中には100社以上の会社にプレエントリー（インターネットを通じた応募）する学生もいる。日本の大学生は就職についてどのような考えを持っているのか、そして企業はどのような基準で学生を採用しようとしているのか調査した。

「語学力を生かし、社会に貢献できる仕事を探した結果、翻訳という職業にたどり着きました。」そう話すのは、慶應義塾大学文学部を2015年に卒業し、ホンヤク出版社に今年から勤めるIさんだ。慶應義塾大学経済学部を卒業し、今年から金融関係の企業で働くOさんもまた、友人に誘われたインターンがきっかけで今の職種を大学在学中の早い段階で目指すことになった。

大学生の就職支援を行っているマイナビが2016年入社の大学生を対象に行った就職意識調査によると、40%が「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」を重視している。一方、「安定している会社」を重視する学生は2013年頃から上昇傾向にある。

2015年のマイナビ大学生就職意識調査によると、2015年卒の学生は「自分のやりたい仕事(職種)ができる会社」を重視している。一方、「安定している会社」は2013年頃から上昇傾向にある。

『個人の生活と仕事を両立させたい』割合が一年前よりも高くなっています。」マイナビ編集長の吉本氏は語る。

こうした安定志向は、近年の学生に見られる傾向である。マイナビの別の調査では、「自分たちの世代についての言葉で当たっているもの」は、「安定した生活を求める」が前年比5.3ポイント増の65.7%と最も票を集めた。また、「理想の将来像」は男女とも「愛する人と結婚して子供ができ幸せに暮らす」が1位となった。

企業側は、学生が大学で何を学んだかに加え、さまざまな経験を通してどのような強みを身に付けたかを見ているという。そして、その専門知識や経験を、入社後に再現し、継続して成果を生み出してくれるのかという視点で、学生を評価しているという。

「特に文系出身者の場合は、職種も総合職という専門性を限定しない形で採用し、入社後に本人の適性を見定めて、配属先を決めるケースが多いです」とマイナビ編集長は指摘する。

前出のIさん、Oさんもまた、「何社か見て回ったが、業務内容に魅力があっても、社内の雰囲気あまり良くないと仕事を続けられないと思います。」(Iさん)「希望の職種の最大手の厳しい雰囲気についていけないと思いました。」(Oさん)と、企業の人柄や雰囲気を重視して就職先を選んでいる。

現代の日本の学生は、やりたい仕事と企業の安定した働きやすい環境の二つの点を重視しているようだ。

### 編集後記

多くの日本の大学生が行う「就活」。その現状について触れることができ、私自身にとっても非常に興味深い内容となりました。特に、近年の大学生の傾向や、実際に就職活動を行った先輩にお話を聞くことは大変勉強になりました。取材にご協力頂いたマイナビの皆様、先輩方、ありがとうございました。

川崎萌

海外の方に日本の就活事情の一面が伝われば嬉しいです。

名倉俊雄